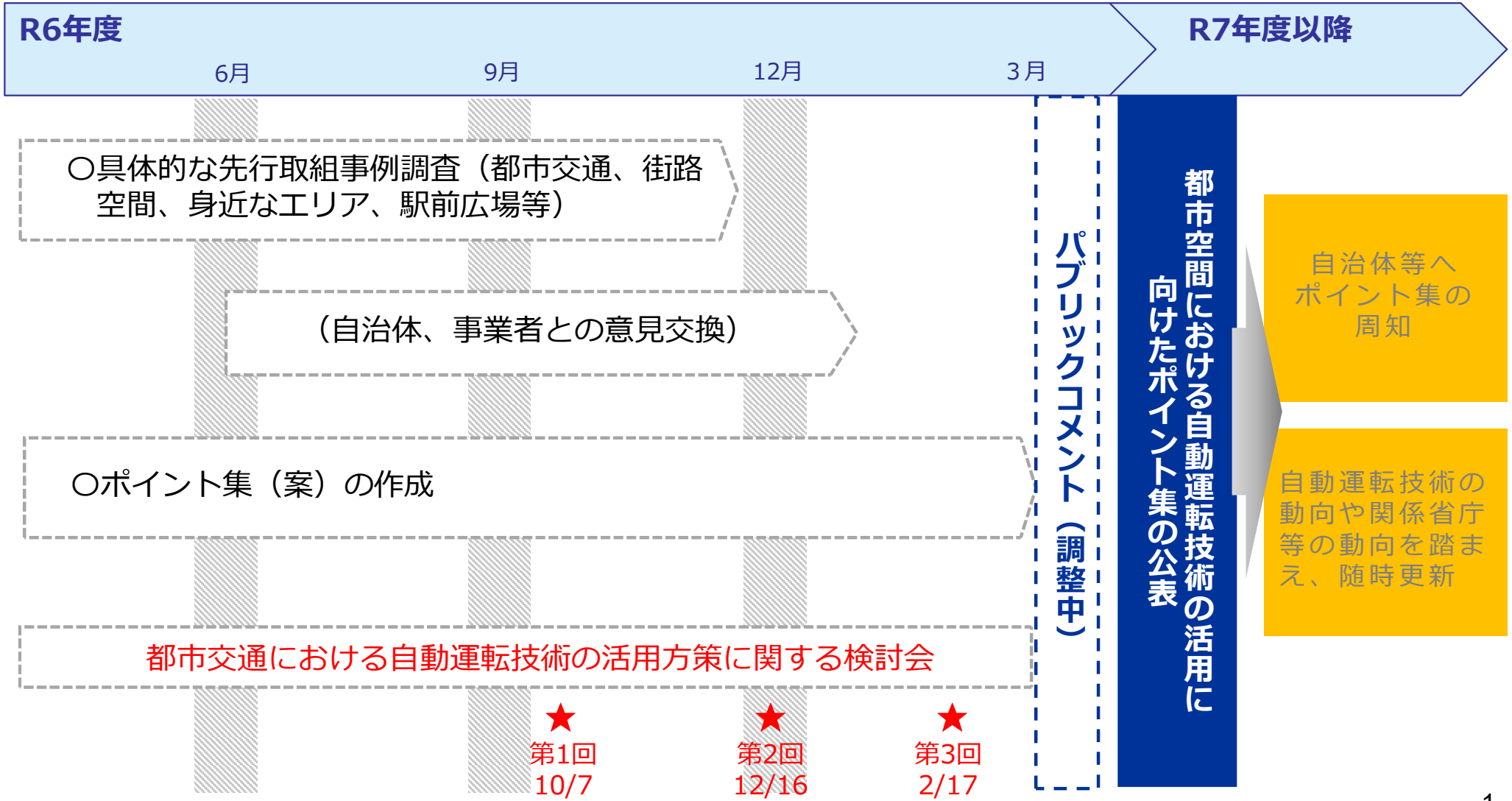
資料３－1

第2回検討会における主なご意見等

R6年度の検討スケジュール

国土交通省

■今年度は、自動運転社会における望ましい都市交通・都市交通施設のあり方検討を深度化させるため、それぞれの姿の実現に向けた対応策とそのポイントを整理。
■今後は、具体的な先行取組事例を調査し、対応策とそのポイントを深度化し、都市における自動運転技術の活用に関するポイント集（案）を作成する。



R6年度第2回検討会における主なご意見

国土交通省

■主なご意見

○自動運転技術が普及すると、都市局が推進するコンパクト・プラス・ネットワークとウォーカブルな都市づくりに対して逆行する可能性があるため、**自動運転が社会実装される時代には、大前提として、まちのマネジメントを行う必要がある旨の記載をしておくべきである。**

○カーブサイドをデジタル化することで情報が取得できるため、管理も可能になる。空間の設計、制度及び制度をふまえたプライシングは自動運転が実装される時代には柔軟に対応可能になると思うので、プライシングに触れていただきたい。

○自動運転としてイメージするロボットタクシー等の動向が記載されると、ポイント集を自治体の方々に興味を持って読んでいただけるのではないか。

○**手動運転から自動運転への小さな変化が、都市全体の土地利用や都市構造をも変えることを伝えることで、イラストの意義が見いだせるのではないか**。

○先進的な取組み事例が自動運転と直接的に関係が無いものだと自治体の方に誤って捉えられないよう、（一見自動運転と関係なく見える先進的な取組み事例でも）**事例を参考にすることで自動運転時代にさらに望ましい姿に近づくという説明を各事例に記載してはどうか**。

○**都市計画マスタープランや総合戦略を作成する際に自動運転に関する内容の記載の仕方が分かるようにしていただきたい**。

○全体の概念図が欠けている。**自動運転は、上手に導入すれば、コンパクト・プラス・ネットワークの政策を前に進める良い機会**である。そのあたりの議論もふまえて、まとめていただきたい。

【ポイント集の作成・更新の考え方】

- **各種都市計画や交通戦略の取組と自動運転技術の活用を連携させ、両輪となってまちのマネジメントを行うことが必要である旨を明記し、構成（章立て）を再編。**
- **プライシングやロボットタクシーの動向などを、関連する対策にあわせて情報を追加。**
- **現在、自動運転の混在期、完全移行期で空間別にイラスト化し、段階的に土地利用、都市構造が変わっていくイメージを提示。**
- **先進的な取組事例について、自動運転との関係性についても追記。**
- **自治体会議を経て、自動運転を計画へ位置づけた事例を充実。**

自治体会議の概要

国土交通省

開催概要

【日時】 令和7年年1月20日（月）10:00～12:00
【場所】 AP東京八重洲（10階　ROOM X）
【参加者】
座長：早稲田大学　森本教授
自治体：（対面参加）前橋市、岐阜市、堺市、小松市
（WEB参加）名古屋市、東広島市
【議題】
①ポイント集における空間別の取組事例について（意見交換）
②自動運転検討の上位計画への位置づけについて
（自治体事例紹介・意見交換）

主なご意見

〇もう少し自動運転の導入を前面に出した内容がよい。

〇都市部や郊外部といった導入場所によるメリットや効果の違いなどが分かるような記載があるとよい。

〇走行空間について、「一般車両との混在を減らし、限定空間に近い環境を整えていくことが望ましく」と記載があるが、混在空間での導入もあるため混在空間での導入がネガティブにとらえられないような記載にしてもらいたい。

〇センサーが街路樹に反応して走行できないこともある。道路周辺の街路樹や看板等のあり方についても言及があるとよい。

〇 PTPSや矢印信号もあるが、その設定秒数も重要であるため、そのような幅広に読める記載にしてもらいたい。

〇今のバスの形状が自動運転に適しているのか疑問である。一人で乗り降りできるような車両は手動運転のバスでも望まれるものであり、未来の車両の在り方についても記載があるとよい。

〇道路側での支援がないと車両が高価になる。バランスの取れた導入が望まれる。